

令和 5 年度 PTA 定期総会報告

令和 5 年 5 月 20 日
東京都立三鷹中等教育学校
PTA 会長 弓谷 照彦

5 月 20 日、学校にて令和 5 年度 PTA 定期総会が開催（会員総数 898 名、出席者数 171 名、委任状 555 名、総数 726 名で会員の 4 分の 1 に達し、総会が成立）され、議事はすべて可決されましたのでご報告致します。

※お手元の総会資料の「案」を消してください。

総会の議事については、総会資料をご覧ください。以下、校長先生と PTA 会長の挨拶です。

1. 校長の挨拶

《小林校長先生挨拶》

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中たくさんの方のご出席をいただきまして本当にありがとうございます。昨年度はコロナが非常に激しい中で新学期が始まりました。コロナが徐々に収まるにつれ学校の教育活動も少しずついろいろな事ができるようになってきました。今年に入りまして 5 類に移行となり、先日は遠足などの校外学習が行われ、すべてコロナ前に戻り教育活動が充実してきたと思います。私は 2 学年の校外学習で池田町での田植え、白馬村の民宿での農作業体験活動と一緒に行きました。2 年生の生徒の明るくて元気ののびやかな様子を見て嬉しく思いました。私も高等学校で 26 年間、教鞭に立っておりましたが中学生の生徒を間近に見て大変反応がいいと思えました。こちらの声かけにもすぐに答えてくれるなど三鷹中等教育学校の素晴らしさを感じた次第であります。

今年 6 月 21 日に合唱祭があり、ほぼ例年通りに進めることで検討しているところでございます。午前中は前期課程保護者の皆様、午後は後期課程の保護者の皆様に来ていただくことができると思います。徐々に正常に戻していく予定ですが給食など食事の時は引き続き黙食という形で進めさせて頂いております。最近またコロナが全体的に少しずつ増えているようなところもあり行事や中間考査なども控えていますので大事をとって慎重に進めていきたいと思っております。

子どもたちがこうした様々な学習活動ができるのも本当に PTA の皆様の力強い支援のおかげだというふうに思っております。4 月にこちらの学校に参りましてから栗津会長や弓谷副会長とお話させていただきました。昨今はやはり全国的にどこの学校の PTA の活動もだんだん低調になってきて委員の選出も困っている学校があるぐらいです。その中で会長と副会長が一致団結しながら PTA の役員と共になんとかして三鷹中等教育学校を盛り上げていきたいという一念でご努力されてきたと思います。PTA は仕事の内容や組織なども全国的にどんどん新しいやり方に変わってきている状況でございます。時代の流れとともに本校の PTA も新しい形を模索しながら進めていくという話を伺っております。私どもとしましては、PTA の皆様のお力を頂いて力強く学校の活動を進めていきたいと思っております。

今年度もまだコロナの影響もありませんが教育の正常化に向けて教員一同、精一杯やっけてまいりますのでご支援、ご協力を賜りたくどうぞよろしくお願い致します。

2. 会長の挨拶

《令和 4 年度 三鷹中等教育学校 PTA 会長 栗津》

皆さんこんにちは。今日は新旧役員引継ぎのため学校内を移動していた際に 1 年生のクラスから子どもや先生の元気な声が聞こえていました。4 月の入学式での会話も制限されていた時から 1 カ月が過ぎ、校内の様子も変わり時間の経つ早さを感じております。

ちょうど 1 年前には久しぶりで対面での PTA 総会をさせていただき、160 名を超える保護者の皆さんがお集まりくださいました。コロナ禍明けの学校への関心の高さを感じました。昨年は藤野校長のもとでいろいろな学校活動が徐々に復活していき、PTA としても少しずつお手伝いをさせていただきました。考えてみますとその頃はコロナ禍前の活動を考慮に入れながらの企画となっていました。今後は 5 類に移行にともない、過去の活動には拘らず未来に向けて時代にあった PTA の在り方を次の R5 年度本部の方々が考え、実行していかれることと思います。今日の総会はそうした基本的な部分について皆さんの意見を伺い同意を得られる貴重な場だと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

3.新会長の挨拶

《令和5年度 三鷹中等教育学校 PTA 会長 弓谷》

今年度会長として、ご挨拶させていただきます。

総会の場ですので、会長らしく、“PTA 活動の大切さ”を言葉にできないか考えてみましたが、なかなかこれが難しい……。そこで試しに、今話題の Chat-GPT を使ってみました。

少し角度をつけて「くじ引きで PTA の役員になってしまったのだが、避けるためにはどうすればいい？」と尋ねてみました。

すると、「交代を依頼する」とか「役割を分担する」とか「忙しい理由を伝える」といった具体的なアプローチを提案してくれました。そして更に、「ただし」として付け加えてきた言葉がすごかった。Chat-GPT いわく「ただし、PTA は子供たちの学校生活を支える重要な組織であり、保護者の参加が期待されています。活動は子供たちや学校コミュニティにとってプラスになる場合が多いので、可能な限り協力することが望ましいです。」と——（会場、笑いと拍手）。

まるで“本部役員経験者”のような回答で、あなどれないなあとも感じます。

でもやはり「活動は子供たちや学校コミュニティにとってプラスになる」と言われても、抽象的で物足りない気がしましたので、昨年度の活動の中で、僕が“PTA の活動ってこういうことかな”と感じたエピソードを一つ、ご紹介したいと思います。

今年の3月の卒業式。今回の卒業生は、高校生に相当する後期3年間が丸々コロナ禍にあたった世代です。そういう卒業生だからこそ、PTA として何かお祝いがしてあげられないか——そう考えていたある役員が、粟津会長に相談を持ち掛けました。それは、記念撮影のスポットとして“巨大な卒業証書パネル”を設置してあげられないかという相談でした。

卒業式4日前の差し迫った時期でしたが、粟津さんは翌日には校長先生と直談判。意気を感じた校長先生も二つ返事で快諾してくださり、実現しました。

卒業式当日、多目的室前に置かれた巨大卒業証書には、長蛇の列。撮影係も買って出たこの役員さんがおっしゃっていた言葉が印象的でした。

「ファインダー越しに見る、友達同士でいい笑顔で並ぶ卒業生たちや、少し照れくさそうに親子で収まる姿に、こっちが幸せな気分でした」と。

このエピソードには、PTA 活動のエッセンスが詰まっているように思います。

急な発案であったにもかかわらず実現できたのは、日頃の PTA 活動を通じて、保護者と学校との間に「信頼関係」があったからでした。日数のない準備期間だったため、実はこのパネルは業者発注ではなく手作りでしたが「自発的な企画」だからこそ楽しんで作業され、短期日で完成したのでした。

「学校との信頼関係」と「保護者の自発性」の歯車が噛み合って生まれる「笑顔」——。総会でご承認いただいたように、今回多くの委員会が新しい在り方でスタートすることになりました。こうして始まるすべての活動も、こうした「子供たちや保護者の笑顔」に繋がるものでありたいと考えています。

そのために、今年度、委員となってくださった皆様とよく連携しながら、また、すべての保護者の皆様の声に耳を傾けながら、本部として最善を尽くして参りますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。長時間、ありがとうございました。

(↓ PTA寄贈のフォトスポット)

